

第49回 日本人工透析医学会発表資料

抜粋

発表題名：下肢の冷感を訴える患者さんに対する高保温靴下の使用

(医)有心会 愛知クリニック

伊藤 初枝 田中 泰子 加藤 竜典 高井 一郎 231239

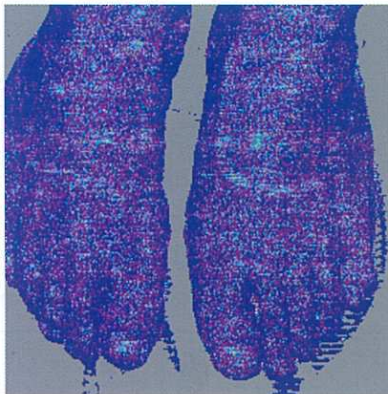
大幸医工学研究所

新里 高弘 前田 憲志

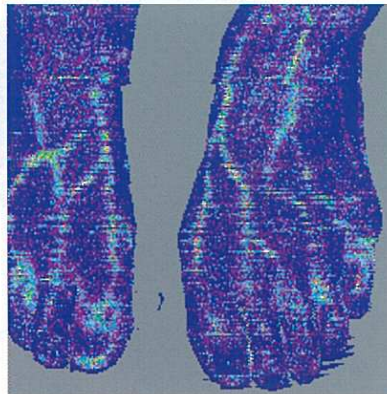
(医)有成会 名西クリニック 230869

丘 博文

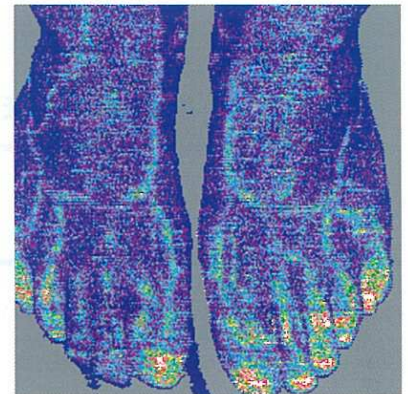
ドップラー式血流量の測定



素足での血流量の状態



左足に従来の靴下、右足に高保温性靴下を
着用した状態での着用直後の血流



高保温性靴下の着用2時間後の
血流状態

普段から足先の冷感を強く訴える5名の透析患者さんに着用してもらい、透析中に足先の冷感の推移について検討しました。

これら5名の患者さんのうち4名は糖尿病を合併しており、他の1名は高度の動脈硬化の認められる患者さんでした。

これらの患者さんには、透析開始15分から30分前に高保温性靴下を着用してもらい、透析中、30分おきに足先の冷感について質問しました。

その結果、5名すべての患者さんで高保温性靴下の着用により透析中の足先の冷感が軽減するとの所見が得られました。

次に、足先に冷感を訴える患者さんで高保温性靴下の着用により透析中の足先の冷感が軽減するには足先の血行改善が関与している可能性があると考え、一部の患者さんで高保温性靴下を着用した際の足の血流量の変化をドップラー式血流計により測定しました。

その結果は上記図です。対象患者さんは糖尿病性腎症により、透析導入後11年を経過した76歳の女性です。

高保温性の靴下を着用した方の足では2時間が経過しても血流量は低下していませんでしたが、普通の靴下を着用した方の足では着用2時間後には血流量が低下していることが分かりました。

まとめ

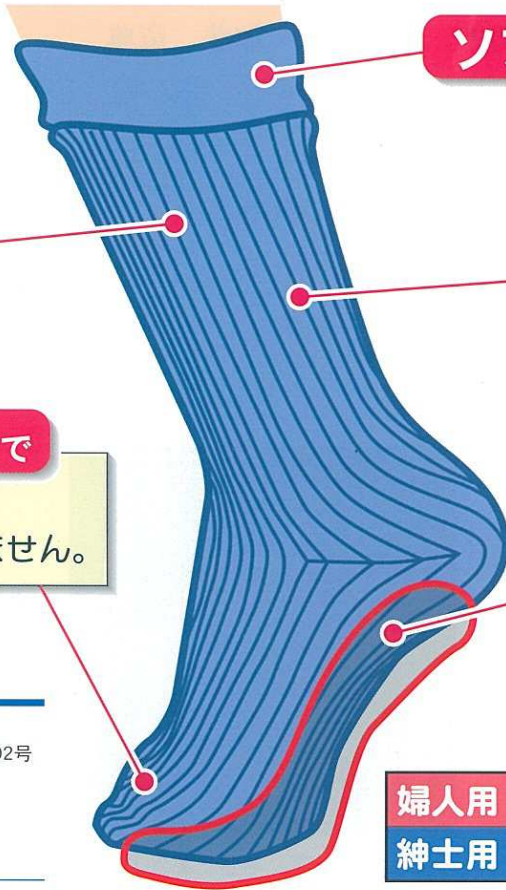
高保温性靴下は、末梢循環不全のために足先に冷感を認める糖尿病腎症の透析患者さんにおいて、冷感を軽減するのに有用であると思われます。

■研究開発支援機関

経済産業省・ひろしま産業振興機構・東広島市
広島県生産技術アカデミー・東広島商工会議所

第49回 日本人工透析医学会で学会発表 【発表者：愛知クリニック】

2重式あぜ編み(凹凸編み)靴下の特徴



綿使用で

肌に優しく、
安全なスベリ止め効果

ソフトな履き口で

履き口が
きつくなりません。

あぜ編みにより

凹凸状態になるため空気が
溜まります。

特許工法で

つま先に
縫目がありません。

裏地が白のため

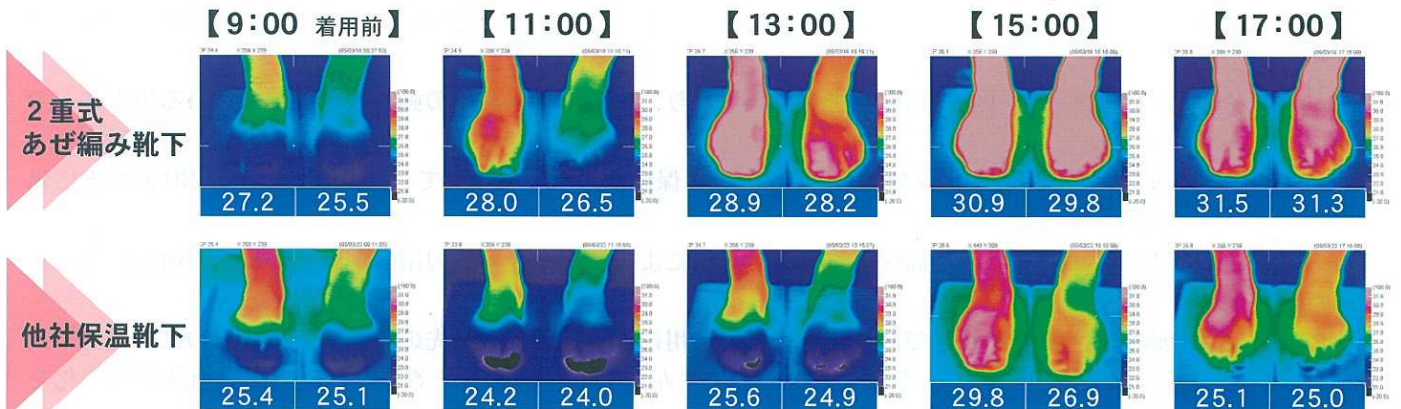
足ウラのキズのチェック
ができます。

実用新案権 / 3098891号
意匠登録権 / 1250501号 1200323号 1226002号
1228795号 1228796号
海外意匠登録権(欧州) / 000186531 - 0001号
(中国) / 2004300598262号
(米国) / 出願中

婦人用	22~24 cm	●ク口・●ノーグレー
紳士用	24~26 cm	●ク口・●ノーグレー

サーモグラフィー比較測定

実施日：平成17年3月20日～25日



- ・経済産業省「平成16年度 中小企業ベンチャー挑戦支援事業」採択
- ・中小整備基盤機構「平成16年度 繊維自立支援事業」採択
- ・第4回 ひろしまベンチャー育成基金「優秀賞」受賞
- ・りそな中小企業振興財団第18回 中小企業優秀新技術・新製品賞「優秀賞」「産学官連携特別賞」を受賞
- ・中国ニュービジネス協議会 第18回 ニュービジネス大賞「特別賞」受賞

発売元

製造元

〒739-2402 広島県東広島市安芸津町三津4424
株式会社コーポレーションパールスター
電話：0846-45-0116 FAX：0846-45-0150
Eメール：parlstar@pastel.ocn.ne.jp
<http://corporation-pearlstar.com/>